

# 新しいごみ処理施設の整備を進めています

私たちが生活していく中で、どうしても出てしまうごみ。そのごみを処理し、きれいな環境で暮らし続けていくために欠かせないのが、ごみ処理施設です。

今、市ではそのごみ処理施設の老朽化などで、安定的・効率的なごみ処理が難しくなってきたっており、新たな施設の整備が必要になっています。今回の特集では、市が進めている、新しいごみ焼却施設と一般廃棄物最終処分場の整備を紹介します。

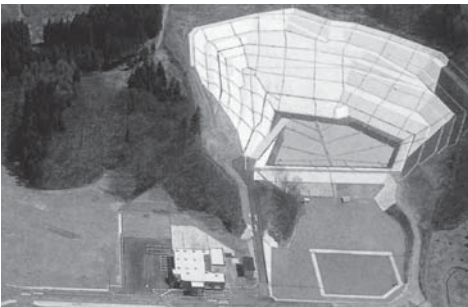
◎問合せ 廃棄物対策課 ☎22・2849



鶴岡市ごみ焼却施設



リサイクルプラザ



岡山一般廃棄物最終処分場

## ごみの行方

私たちが生活する中で出る「ごみ」。鶴岡市の家庭などからごみステーションに出される、1年間のごみの量はどのくらいだと思いますか。答えは約2万9,000トン。1台の収集車が1度に回収できるのは約1・7トンですから、約1万7,000台分にもなります。

では、そのたくさんのごみは、どこで、どうやって処理されているのでしょうか。

現在、市では、ごみ焼却施設（市内宝田。し尿処理施設も併設）、不燃ごみ処理施設「リサイクルプラザ」（市内水沢）、そして、岡山一般廃棄物最終処分場（市内岡山）の3か所で、私たちが出したごみを処理しています。

ごみ焼却施設はごみの焼却処分を、リサイクルプラザはごみの再資源化を、岡山一般廃棄物最終処分場はごみ焼却施設の焼却灰等（焼却残渣）とリサイクルプラザで資源にならなかったもの（不燃残渣）の埋立てを担っています。

## 今、新しい施設が必要

それぞれが大事な役割を果たしている市のごみ処理施設ですが、課題もあります。

それは、ごみ焼却施設が老朽化して処理効率などが低下していることと、岡山一般廃棄物最終処分場が満杯に近づいていることです。

今後も安定的・効率的にごみを処理していくために、今、新たなごみ焼却施設と一般廃棄物最終処分場の整備が求められています。

# 1

熱エネルギーを活用し、循環型社会を目指す

## 新しいごみ焼却施設

平成元年の稼動から30年が経過した現在のごみ焼却施設。老朽化によって、処理効率が低下したり、機器の不具合が発生したりして、ごみの適正な焼却が難しくなっています。今後も、安全にそして安定的にごみの焼却を続けていくために、新しい施設の整備が必要です。

新しい施設の整備は、市が策定した5つの基本方針の下で、施設的设计・建設・運営・維持管理を一括して民間事業者が発注する公設民営方式（DBO方式）によって行い、平成29年12月に日立造船(株)東北支社を代表企業とする共同企業が事業者として決定しました。2021年4月の供用開

始に向けて、現在のごみ焼却施設の隣に建設が進められています。ごみの効率的な焼却に加え、ごみを燃やした際に発生する有害物質の更なる削減や、熱エネルギーの発電への利用など、環境保全と循環型社会の実現につながる施設になることが期待されます。

### 施設整備5つの基本方針

- 01 安全に配慮し、長期の安定稼動を目指す施設
- 02 経済性に優れた施設
- 03 熱エネルギーの効率的回収と効果的な活用
- 04 環境保全に配慮し、周辺環境と調和した施設
- 05 災害に強く、住民から信頼される施設

### 施設の概要

- 【建設場所】 鶴岡市宝田3丁目13-6
- 【施設規模】 160t / 24時間 (80t × 2炉)
- 【処理対象】 生活系可燃、事業系可燃、可燃残渣、し渣、し尿汚泥
- 【処理方式】 全連続運転焼却式 (ストーカ式)
- 【供用開始】 2021年4月 (予定)

### 事業者

日立造船・佐藤工務・鶴岡建設特定建設工事共同企業体  
(代表企業：日立造船(株)東北支社)

### 事業費

196億円 (税抜き)	
内訳	
設計・建設業務費	118億4,700万円
運営業務委託費(20年間)	77億5,300万円

### 完成予想図



煙突の高さ59m、屋根の高さ32m

# 2

生活環境・自然環境に配慮し、埋立て終了後は里山として再生

## 新しい一般廃棄物最終処分場

### 最終処分場の役割

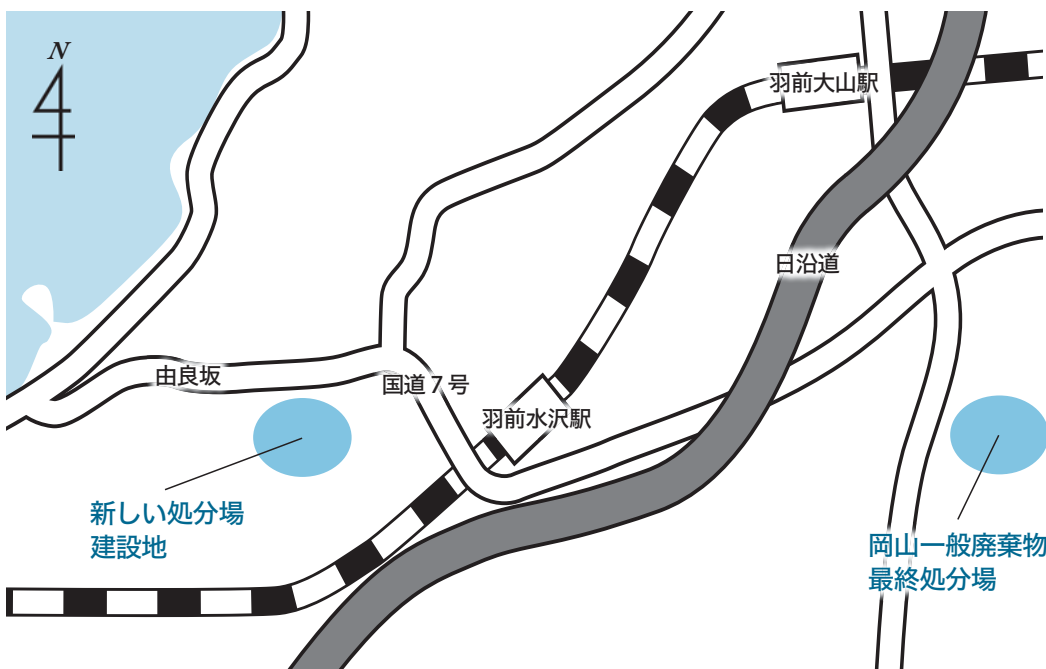
ごみを燃やしたとき、後には焼却灰やすすが残ります。また、不燃ごみを処理したとき、再資源化できないものが残ります。そのため、廃棄物は「ゼロ」にはなりません。これらの廃棄物を受け入れ、埋立て処分するのが一般廃棄物最終処分場なのです。現在稼動している岡山一般廃棄物最終処分場は、平成9年に供用を開始してから21年が経過し、埋立てできる容量が残り少なくなってきました。今年8月時点の試算では、2020年9月頃には満杯になる見込みです。しかし、その後も廃棄物の埋立てを続けていかなければならないため、岡山一般廃棄物最終処分場に代わる、新たな処分場の整備が必要です。

### 上郷地区大荒地内を候補地に選定

市では、新しい処分場の整備に向けて、平成25年度から26年度にかけて、各種資料に基づいて、埋立て可能容量や浸出水量などのデータを調査。現場を確認した上で、市内8か所を候補地として絞り込みました。その中で比較・検討をした結果、上郷地区大荒地内を有力な候補地として選定しました。それに伴って、平成26年12月から27年3月まで、専門業者に委託して、水環境に関することや土地利用規制等の整理などの調査を実施。大荒地内が処分場に適した環境にあるとの報告を受け、正式に候補地としました。

### 地元住民等への説明と整備への取り組み

しかしながら、これらは地元大荒自治会から事業実施に当たっての同意の下で進められたものではなく、立地を選定した過程や合意プロセスに課題を残す結果となりました。現在使用している岡山一般廃棄物最終処分場の整備の際には、平成6年10月に岡山自治会からの同意を得た上で、地質調査や各種設計等の作業が進められました。大荒における事業を進めるに当たっては、平成27年5月から、大荒自治会や上郷地区住民、地権者などを対象とし



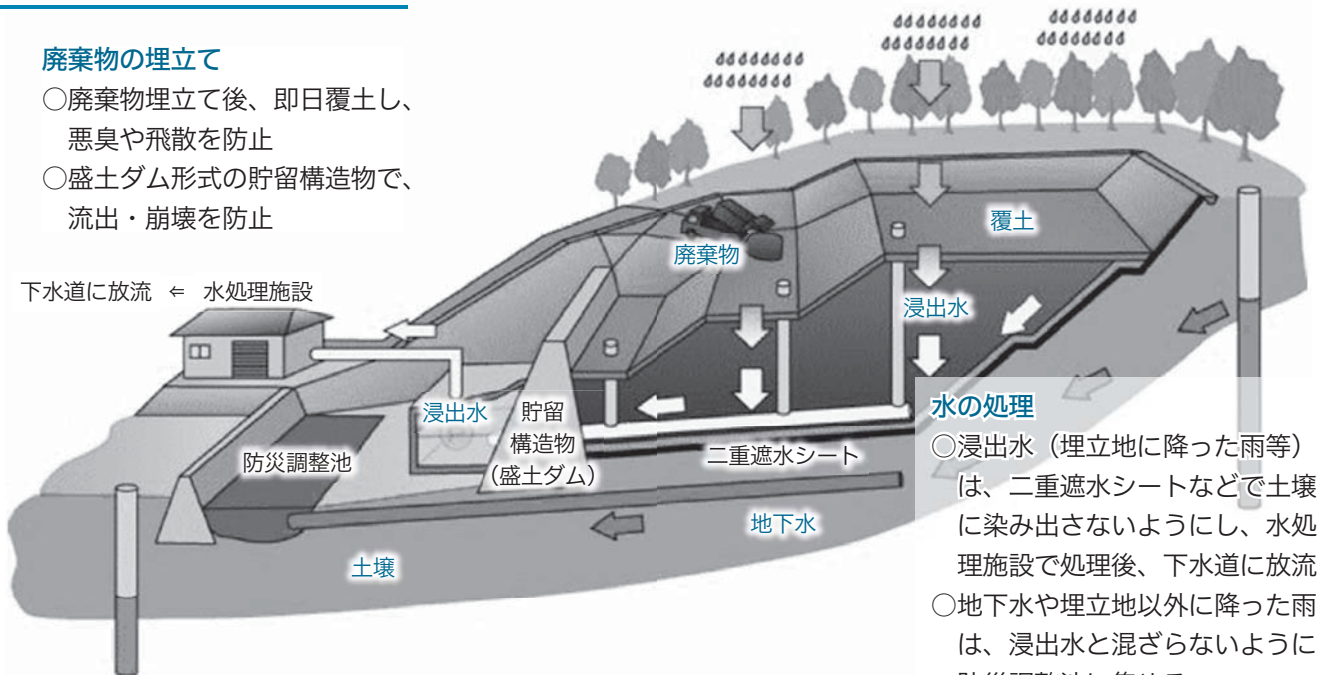
▲新しい処分場建設地と岡山一般廃棄物最終処分場の位置・周辺地図

## 最終処分場のしくみ

### 廃棄物の埋立て

- 廃棄物埋立て後、即日覆土し、悪臭や飛散を防止
- 盛土ダム形式の貯留構造物で、流出・崩壊を防止

下水道に放流 ← 水処理施設



### 水の処理

- 浸出水（埋立地に降った雨等）は、二重遮水シートなどで土壌に染み出さないようにし、水処理施設で処理後、下水道に放流
- 地下水や埋立地以外に降った雨は、浸出水と混ざらないように防災調整池に集める

## 施設の概要

- 【建設場所】 鶴岡市大荒字荒沢前地内
- 【埋立面積】 16,600㎡
- 【埋立容量】 約130,000㎡
- 【埋立対象】 焼却灰、ばいじん 煤塵、不燃残渣
- 【埋立期間】 15年間
- 【供用開始】 2021年10月（予定）

## 事業費

73億8,000万円（想定）

内訳	設計費	3億1,000万円
	用地費	7,000万円
	工事費	70億円

## 主要設備

- ▶貯留構造物（盛土ダム）
- ▶遮水工
  - 構造…二重遮水シート
  - 設備…漏水検知システム
- ▶浸出水処理施設
  - 能力…150㎡/日
  - 放流先…下水道
- ▶搬入道路
  - 国道7号から新設
- ▶防災設備
  - 形状…防災調整池

た説明会の開催や、岡山一般廃棄物最終処分場の見学会を実施するなど、理解を得ることに努めました。

しかしながら、大荒自治会の同意を得られていなかったことから、27年度に予定していた地質調査が実施できず、その後の全体の進捗に大きく影響を与えてしまうことになりました。

その後、平成30年8月1日に大荒自治会から建設に対する同意をいただき、同8月に完了した実施設計によって、今後の工事期間は2年9か月を要することとなり、現在、

供用開始の目標を当初の2021年4月から同年10月に変更して、事業を進めています。

**いかにして考える**

生活する上でどうしても出てしまうごみ。その処理は、私たちにとって一番身近な環境問題と言えるのではないのでしょうか。

新しいごみ焼却施設と一般廃棄物最終処分場の整備が進められている今、改めてごみ処理について知り、減量や再利用など、私たちにできることを考えてみませんか。

### ●Check 2020年9月頃から2021年9月までの焼却灰や不燃残渣の処理

現在の処分場が満杯になると見込まれる2020年9月頃から、新しい処分場の供用が開始される前の2021年9月まで、約1年間、焼却灰や不燃残渣を処理できる施設がない期間が想定されています。市ではその間、処理を民間業者に委託する予定です。